

第1部

イグアナの基礎



1

イグアナを飼う前に

私たちとイグアナとの出会いは、まったく唐突に起こりました。それまでは熱帯魚、カメ、カエル等を飼っていた関係で、その手のショップにはよく出入りしていたのですが、そこに彼女はいたのです。

見事なまでに美しい体色、大きなつぶらな瞳、



指より細い、色鮮やかな幼体：良く見ると、緑、黄緑、ターコイズブルー、セラドン、白、茶色、黒など、さまざまな色が含まれている。

おとなしい性格、すべてが新鮮で衝撃的でした。その時、幼体のイグアナと目が合ってしまったのが始まりで、背中に戦慄が走り、その瞬間から、頭の中がイグアナでいっぱいになってしまったのは言うまでもありません。そうです、恋をしてしまったのです。

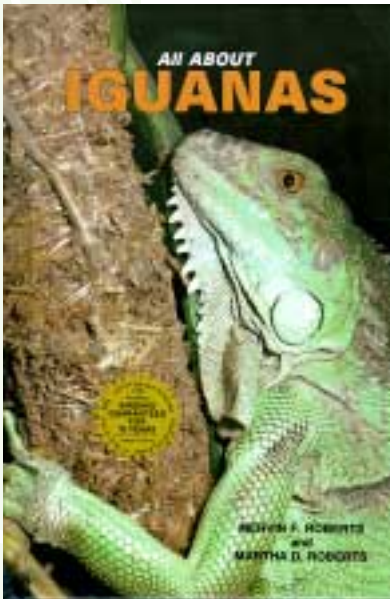
当時は、まだ、1匹3～4万円していたこともあり、お金の面からも買う決断をするには勇気があることでした。そして何よりも、はたして自分に飼えるだろうか、という疑問が強くありました。しかし、イグアナたちは見れば見るほど美しく、罪のない視線を投げかけて来ます。心がぐらぐらと揺さぶられます。「買ってしまえ！」と天の声が聞こえるような気がする一方、「お前はイグアナのことは何も知らないではないか！」と理性が警告します。だれしも新しく生き物を飼おうというときは、このような戦いが頭の中で繰り広げられることでしょう。

何度もショップに通い、温室の前にかじりついて、迷っては帰ることを繰り返しているうちに、見かねたショップの人が声をかけてくれました。「1匹尾の切れた個体がいるけど、それなら半額でいいよ」と。それが私たちと最初のイグアナとの運命の出会いでした。

iguana iguana

今考えると、それはかなり無謀な決断だったと思います。とにかく、私たち自身、イグアナに関する知識は無に等しく、飼育のために何が必要だとか、どのくらいの大きさになるのかさえはっきりと認識しないまま買ってしまったのです。もし現在、そういう買い方をしようとしている人を見かけたら、今の私なら間違いなく忠告するでしょう。

何はともあれ、こうしてわが家に新しく天使のようなイグアナの幼体が来たのです。この最



イグアナの洋書：イグアナ先進国アメリカでは、数十冊のイグアナ飼育書が発売されている。

初のイグアナが非常に良い個体で、尾の切断事故を経験しているにもかかわらず、初めから人に良く馴れ、手の中で眠ってしまうほどでした。幼少のころから爬虫類と接する機会は多くありましたが、どちらかと言うと爬虫類は「人を見ると逃げる」というイメージが強い生き物です。

ところが、この美しい緑色のトカゲは自ら人間に寄って来たり、頭の上って

落ち着いてしまったりするのです。

古い爬虫類のイメージは崩壊しました。かわりに、正しく接していれば、たとえ人間とイグアナでも互いに信頼でき、分かり合えるようになると確信したのです。とにかく自分にできる限りのことをしてやろうと決意しました。

まず最初に最も欲しかったのは情報です。書店を探し回りましたが、イグアナに関する飼育書は一冊も見つかりませんでした。ところが、ある書店でイグアナ飼育に関する洋書を見つけ、海外にはその手の本が多数存在していることが分かってきました。まずは洋書との格闘です。

そのためにFAXを買い、海外の書店で扱っているイグアナに関する文献や爬虫類の病気に関する本を、すべて注文して取り寄せました。これらの本を読んで、飼育に関するノウハウもさることながら、諸外国の人々のペットに対する考え、取り組み方に深く感銘を受けました。

爬虫類であろうと熱帯魚であろうと、先進諸国の人々は、単に「ペット」ではなく、共に生活をする「コンパニオンアニマル」として、それらの生き物と接しています。人間が一方的に動物を飼うのではなく、動物とどのようにして共存するかを真剣に考えているのです。特にイグア